

いたずらっ子

— A の場合 —

谷口和子

幼児を毎日観察しておりますと、幼い乍らにそなえている一人一人の子供の特性を何とかつかむことが出来ませんが、何か問題をもっている子供の指導には何がその根本原因かと探ることが必要になつて来ます。こゝにその一つの例を記してみようと思ひます。

問題の子供をAと致します。Aは幼稚園の帰りに同じ道すじの子供と一緒に帰ると帽子をとつたりつゝいてみたり、電車道に石をおいてみたりして附添いの父兄を困らせるいたずらを致します。母親も部屋を貸している女の子をAが物指してたゞいて困つたことがありますし、この子供の近くの母親達からはしばしばAがいたずらで、がき大将になりあふなくて困ると訴えられます。幼稚園では自分からけんかをしかける時もありますが、それより多く他の子供のけんかにとび出してゆき、三つどもえになつて腕力をふるひ、自分ほめつたに泣かず人を泣かせ、受持ちの私もヒヤッとさせられる行動をよくみかけ、一体何故この様な悪いいたずらをするのかその原因をさぐり根本的に直してやりたいと考へました。そこで日常の行動の観察をたんねんにし智能テスト、ロールシャッハテスト、運想検査TAT等を行いこれらをあわせて、Aとい

う子供は身体、情緒及び社会性、知性の面からどんな風に発達しそしてどんな様子であるかみてみると、

まず身体の面では、脊は高い方で体重は二十名の男子の上位であり、活力があり、走らせると相当早く走りますが、小さい時に股関節炎を患つたといふことで、バタバタ走るように感じます。おなかをよくこわし母親はそのため、飴を制限して与えるそうで一年の間は五回ほどたずねて見た将来の希望については、いつも「あめやさん」になりたいといふ答が出ています。夜は必ず一回起してやりそれを怠ると寒い晩はそそうをする。起す時に父親は寝台からころがりおとしてそこに一人で立たせるそうですが、母親はだいたまゝ連れてゆくといふことです。尚この子は左ききで大抵のことは左でやりますが父親はこれを極度にきらいなおしているそうですが、身体的な生活の面には問題の根本原因はなさそうです。

情緒的生活の面で目立つことは喜び、悲しみ、いたいことやつらいことに対しても泣く等という感情の表現の乏しい子供で、けんかの原因も人のけんかを買うとか、一寸さわら

れたとかいう程度であり深いものはみられませんが、連想検査で星に対して夜といひ夜はきらいだと申しましたし、父親と映画にゆき殺人や猛獣の出るこわい場面は顔をふせてしまうそうですから恐いものしらすの乱暴者ともいえない様に思います。

善悪に関してはT.A.Tの十枚の画をつかつて話をつくらせた中に

○バイオリンを持ち出してお父さんにおこられた。

○人の部屋をのぞいてはいけないと叱られた。

○いじわるしてけんかになつた。

等父や母に叱られたり教えられたりして何々はするべからず式に善い悪いを理解し、これに実行が伴わず教えられたことの口まねの様な傾向があることは問題であると思ひます。

家では犬を自分で世話をして飼つており、動物が好きで、ロールシャッフテストでも動物に関する話が全体の半分は出ております。又この子のかく画は粗雑でタッチがあまりく、行動もそれに似ています。

社会性の面からみると、遊びの仲間に積極的にはいるのは、野球、角力、格闘ごっこ、ブランコ等の動的な遊びで他の遊びに対して

はニヤニヤ笑い乍ら傍かんしています。

仲間にはいつても、例えば八百屋さんごっこをした時等は他の子供のつかわないものを集めて来て雑多な物をならべ自分だけ離れて平行してその遊びをしました。Aのことについて友達に好きが嫌いがたずねましたら、い

じわるをするから、乱暴だからという理由で女の子も男の子も「嫌い」と答えました。所有物に対しての観念がうすくよく物を忘れま

す。社会生活の面にもやや問題がある様です。

知的な生活の面からみると、まずIQは、描画テストで120、三浦式で127、どちらも三十数人中の二十番目で普通知能と思われ

るのですが、教師作成の問題でテストした成績は三十八人中第一位でした。毎日十分間ずつ五日間観察記録をとつた中からAの言葉をひろうと

○いやだよ

○降りろよ二の組のブランコだものなあ

○かえせよ 等の十四回の発言がありました他の子供の場合は大体二十数回で言葉ももつ

と長く、分類してみるとAの場合は、命令、威嚇、拒否、要求等の自己中心の言葉が多い様です。この記録の中からも伺えたことでの

が、新しく珍らしいものには何でも眼を大きくして衝動的にそれにとりくむ傾向があり、例えば平均台を使つて一本橋わたりをさせようと説明しているとその台は聞かずに、すぐさま亀の子の様にその台の下にもぐつてはいずりまわりました。

お葬式はにぎやかだから好きだといつたところがあるので、案外にぎやかなのを好んでいるのかもわかりません。

批判的な思考は割合に単純で、新聞は大人のみるものだから嫌い、お医者様は病気をなおしてくるから好きさ、音楽、鏡は僕は女じやないから嫌い。等と父母や先生から聞いたことが基になつている様です。

想像力についてはロールシャッフやT.A.Tで戦争や猛獣に関する想像力が豊かなのですが、これは父親があまり選ばずに映画につれてゆくことからとあとでわかりました。概して知的発達には普通の状態では幾分言語の面が劣つていますが、これもはじめの問題には関係ないと思ひます。

ロールシャッフテストで出て来た反応語を分類すると同年令の普通の男子と比べて反応語が少く其の上種類も少く、前に述べた言葉す分類で自己中心的なものが多く出て来てい

るのとあわせて生活領域のせまさを思わせま
す。

100の刺戟語に対する連想検査では小学校
の生徒に行つた平均に比べて内連合が極端に
少く、外連合が大学生の平均のそれに割合近
いものを示し、表面大人つばい所があるとい
うことがこれでいえると思ひます。刺戟語に
対して類似の反応語をあげているのも多く、
これは爆發性の氣質をもつていゝるものに多い
現象だといわれています。

これで大体このAという子供のアウトライ
ンが出ましたが、問題の原因は社会性及び情
緒の生活にあるらしい。そこでこの子供の要
求及びおかれてゐる環境をしり、どんな環境
を子供自身が望んでゐるかを知ら手がかりに
TATの結果をみなおすと、攻撃的な環境を
常に意識してゐる様で、主人公が保護援助さ
れ親愛される環境をつくつております。主人
公の要求は攻撃と支配に終始しておりこの主
人公を本人におきかえて考へてみた時、この
時期の子供として攻撃的支配的な要求はさほ
ど問題にならないと思ひますが、お父さんと
「こわい人だ」と友達や私に説明することか
ら主人公のおかれてゐる環境は攻撃的な環境
であり、それから救われたいとねがつてゐる

ものと思われまゝ。そこでこの子供の環境を
みると、父母共に旧制中学の卒業で一人つ子
です。北支那で生れ三才頃東京の現住所にう
つるまでに六回引越してあります。中でも言
葉を覚えるさかりに、母の長思ひの爲両親と
わかれて暮したことがあり友達がなかつたそ
うですから、氣まゝに話の出来る環境がなかつた
ために言葉の発達がおくれたのではない
かと思ひます。母は欠かさずPTAに出席し
大変教育に熱心の様ですが、あれがよいとい
われ、ばそれに、これがよいといわれればこ
れにという具合でしつかりした考へをもたず
に動く氣の弱さをもつてあります。父親は材
木の仲買いをしており現在はオートレースの
選手もしてゐるとかで近所の人にいわせると
人ずきあひが悪く道で会つても顔をそむけて
しまふやうです。

幼稚園には運動会の時しか来たことがなく
それも幼稚園の先生達は、父兄の人の「さす
がにオートレースの選手だけあつてPTAの
競争は一等だつた」というかけ口で知つた程
です。一寸したことでもたつた一人の子供は
ガミガミとなり、手でたたき「自分は子供は
嫌いだ」というやうで、ともかくこのお父さ
んが問題だと考へ今まであげた材料をもつて
出かけました。くちびるの厚い眼のギョロツ

とした人でしばらくはギョロギョロ何をしに
来たと言われている様に思ひましたが、たま
ま自分の子供の時はこんな弱虫ではないし
もつと頭もよかつたという話になつたので、
私が一番よい成績であつたテストの話をしま
すと、すつかりギョロギョロした調子が變つ
てその日丁度みてきたアメリカンサーカスの
話や映画の話を「あ、その前にこうだつた」
等と引きかえしてみたりしながらずらずら話
してくれました。

そこで子供の協調性のないのは親のそれか
ら直さなければいけないと考へ次のPTAか
らは半分以上はお父さんが出て下さい、出ま
しようと言束しました。家で見た母親は子供
に對してまだ赤ちやん語を使い、スバルタ式
と自分で稱してゐる父親と妙に對照的でし
た。

このあたりでこの子供をどう指導したらよ
いか考へてみると、第一には教師が子供との
間に友好的な關係をつくること。この子は常
にまわりの壓力を意識して警戒的になつてゐ
る。これは父親の權力に對して母親が氣弱で
いる、叱り方にも極端な違いがある。その結
果がいろいろ問題の原因をなしていると思ふ
のです。幼稚園の先生に對してもやはり權威

を感じ帰り道等にはけ口をもとめる結果となつてゐるのだと思ひますので是非教師からの圧力を感じない友好的な關係をこしらえてゆきたい。そしてその事をよくよく父や母にもわかつてもらわなければいけない。

第二はこの子供に自分自身で子供としての子供らしい生き方を教えてやりたい。それは結局父も母も子供の本質を知らずに、片方はあまりに大人の要求をし片方は又本当の姿以下に赤ん坊扱いをし、よい程度に扱われていない。又同じ頃の子供ともまれる場面が少い。それでいたずら盛りの子供が相手に好感をもたれるはずらの仕方をしらないでいる。

この子供の場合幼稚園で友達とどういふうに遊んだらよいかグループの中の自分の生活というものを、級の人の世話や、先生のお手伝い等をさせ乍ら個人的によい生活態度のあり方を指導してゆきたいと考えています。Aの家庭にもつとやわらかさ、温かさ、デリカシーがあつたらとつくづく考えさせられました。子供の問題は多く父や母の家庭の問題でもある様です。

(東京学芸大学附属幼稚園)

(25頁から)

一方教師の側からこれを見れば、自由遊びは指導方法の一種であるということができよう。

ここでは、言語も社会も絵画・製作の指導もすべて自由遊びの形態においてなされて行くことが望まれるのである。自由遊びの指導計画についても、いままでは殆んど無計画であつたか、或は計画をたてるに苦慮されて居つた。(恐らく進んだ考えを持つもの程。)しかし右のような見解に立つ限り、自由遊びの指導計画は絶対に必要なるものであり、また、たてやすく、そしてやりがいのある仕事となるう。

以上、自由の考え方、遊びに対する考え方を明かにし自由遊びに学習形態の意味をもたせることによつて、難解な自由遊びの性格を幾分でも解明し得たと思う。このような考え方に基く自由遊びを幼稚園教育の基本的なものと考えることによつて、過去の托児所か或は古い小学校の亜流の如き幼稚園教育から脱して、新しいそして真の幼稚園教育への通路が開かれるものと信ずる。

言葉が足りないので意志の通じないうらみがあり、誤解をまねく恐れもあると思うけれども、その意図するところがくみ取り得られたならば幸である。尙、自由遊びの指導について具体的に述べるならば一層明かになると思われるが、それは後日にゆずることとする。